

●除去土壌の分別処理を行い、2月末時点で、約1,201万 m^3 （輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
貯蔵容量 ^{※1}	約103万 m^3	約297万 m^3 ^{※2}	約167万 m^3 ^{※2}	約180万 m^3	約269万 m^3 ^{※2}	約105万 m^3 ^{※2}	約85万 m^3	約77万 m^3 ^{※2}
貯蔵量 ^{※1}	約103万 m^3	約289万 m^3	約167万 m^3	約171万 m^3	約221万 m^3	約102万 m^3	約85万 m^3	約63万 m^3
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 貯蔵開始 2023年1月 貯蔵完了	2017年10月 貯蔵開始	2018年10月 貯蔵開始	2020年3月 貯蔵開始	2019年4月 貯蔵開始	2017年12月 貯蔵開始	2019年5月 貯蔵開始 2022年9月 貯蔵完了	2019年12月 貯蔵開始

※1 貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋 = 1 m^3 で換算）であり締め固め前。

※2 必要に応じ堰堤を造成し、容量を増やす予定。

<p>大熊①工区</p>  	<p>大熊②工区</p>  
<p>大熊③工区</p>  	<p>大熊④工区</p>  
<p>大熊⑤工区</p>  	<p>双葉①工区</p>  
<p>双葉②工区</p>  	<p>双葉③工区</p> <p>（受入・分別施設は整備していない）</p> 

左の写真が受入・分別施設、右の写真が土壌貯蔵施設

・仮設焼却施設及び仮設灰処理施設で処理を行っています。

施設	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	・仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉)	・仮設焼却施設： 150 t / 日 × 1 炉 (シャフト炉) ・仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (表面熔融炉)	・仮設焼却施設： 200 t / 日 × 1 炉 (ストーカ炉) ・仮設灰処理施設： 75 t / 日 × 2 炉 (コークスベッド式灰熔融炉)
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPT JV	JFE・前田JV
外観			

・2月末時点で、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器35,587個を廃棄物貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（2棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）	鉄骨鉄筋コンクリート造（1棟）
貯蔵容量※	29,280個	14,678個	30,028個
貯蔵量※	15,388個	14,678個	5,521個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵スケジュール	2020年4月 貯蔵開始	2020年3月 貯蔵開始 2024年12月 貯蔵完了	2023年12月 貯蔵開始
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理受注者	安藤ハザマ・不動テトラ ・浅沼JV	JESCO	安藤ハザマ・不動テトラ ・浅沼JV
外観			

※ 貯蔵容量及び貯蔵量は、鋼製角形容器（内寸 約1.3m(幅)×約1.3m(奥行)×約1.1m(高さ)）の個数。